

献 辞

稲福善男（イナフク・ヨシオ）教授は、平成26（2014）年3月31日をもって名古屋外国語大学を定年退職されることになりました。

同教授は、昭和47（1972）年3月、大阪経済大学大学院経済研究科経営経済学専攻博士課程において単位取得され、昭和48（1973）年4月、京都短期大学講師として教鞭をとられることとなり、昭和50（1975）年4月、同短期大学助教授、昭和54（1979）年4月、同短期大学教授、その後、昭和62（1987）年9月、市立尾道短期大学経営情報学科教授を経て、平成6（1994）年4月から名古屋外国語大学国際経営学部国際経営学科教授に着任されました。平成9（1997）年4月、本学に大学院国際コミュニケーション研究科が設置されるに伴い教授に併任され、学生の研究・教育指導にあたられています。平成16（2004）年4月、国際経営学部が現代国際学部に変更されるに伴い、現代国際学部国際ビジネス学科教授となりました。同時に国際ビジネス学科長の任につかれ、以後6年間にわたりその重責を果たされましたが、在任中、特にキャリア教育の重要性を唱えられ、企業はじめさまざまな組織の責任者を講師として招聘、学生を対象としたいくつかのセミナー合宿を実施されました。これらは、いまま形を変えて続けられています。また、この間、教授は大学評議会委員、学部運営委員会委員として大学および学部の管理運営にあたられました。

教授はドイツ経営経済学を研究の基盤とされていますが、その出発は日本経営学会の創設者のお一人故池内信行博士との出会いにあると伺っております。ここから以後半世紀近くに及ぶ経営学の研究に踏み出されることになるわけですが、池内教授は同学会の重鎮として多くの研究者をその門下より輩出されました。いわゆる「池内理論」として独自の研究領域を確立されたことで知られていますがこれを引き継ぎ、以後「現代総合の理論としての経営学」の確立が教授の大学での学生への講義を通して伝承されていくこととなります。

先生は、大学での派遣研究者としてたびたびドイツを訪問されていますが、特に平成10（1998）年に旧知のD. シュナイダー教授を訪ねて実現したドイツ・ルール大学ボッホム（Ruhr-Universität Bochum）での研究生活は楽しいものになったと、懐かしく語っておられました。

教授は理論経営学、特に経営学説史をライフワークとされておられますが、大学時代の恩師故濱本泰教授の影響もあり財務・会計管理分野の研究も広範囲に手掛けられています。他方、実務への関心も強く、多くの著書・論文の執筆活動と

共に、講演や地域への社会的貢献も熱心に進めてこられています。

お忙しい研究・教育の間を縫うように、先生は、陸ではハーレー・ダヴィッドソンを駆っての遠出、空中を目指しては一瞬の判断が適否を分けるクレイ射撃、海では一級船舶操縦士の資格を持ち、水中ではスキューバダイビング上級ライセンスを体現しての遊泳、と多彩なスポーツを楽しんでおられます。ほかにもグルメ談義等、献辞の枠を越えることがらはたくさんありますが、先生のお人柄を物語るものとして、いくつかのご趣味を紹介させていただきました。

稲福善男教授に対し、通算21年間の長きにわたる研究・教育上の業績および大学、学部の管理運営の功績により、平成26（2014）年4月1日付けで名誉教授の称号が授与されますが、現代国際学部を代表して、今後とも、教授がご健康で、ますますご活躍されることを心よりお祈りして、献辞とさせていただきます。

平成26年3月1日

現代国際学部長
玉井 俊紀